
居合道だより

第91号





1 はじめに

先月、佐賀県立美術館に人間国宝四人展を見に行つた。佐賀県の重要無形文化財保持者四人、陶芸の酒井田柿右衛門（13年没）、井上萬二、中島宏そして染織の鈴田滋人。それぞれが自選した20点が一堂に展示されていて圧巻であった。

たまたまその日は白磁の井上萬二氏の講演が有り、新春からラッキーであった。

白磁は加色がない。だから形が美となる。円いつぼは平凡で一番難しい形である。ろくろから作ったそのままの究極の形が一番の美であり一番難しい形だといえる。

伝統は古いものを模倣することではない。先人の技を正しく受け継いで現代の、平成の伝統というイメージを

創る。それが50年後、100年後に
「平成の伝統」となる。

そのためにはセンスと技術を磨いていく
修練、精進が必要である。と、御年84歳
の老青年はジョークを交え熱っぽく語ら
れた。

青磁の中島宏氏の解説欄には「私は作
品に個性を、独自の言葉を持たせようと
心がけてきた。作品にはその時時の私の
心境が映し出されています。今日、自分
があるのも先人が残した仕事のおかげで
す」。こうも言っておられる、「きれい
ではなく美しいものを求めてきた」。

「人間を見て物を見ると間違ふ。物を見
て人間を見ると間違わない。」とも。

色絵の第14代酒井田柿右衛門氏はご
子息の浩氏に「スケッチをやれ」と白と
いう色の生かし方「余白の美」という二
つの言葉を残されたそう。そして「食
器が原点」とも。

佐賀県立九州陶磁器文化館館長の鈴木
由紀夫は「彼らの成功は個々の才能と表
現性を追求し続けた努力に負うものであ
るが、無数の工人たちの長い年月に培わ
れた技術と知恵が、目に見えないかたち
で底辺を支えているように思える。佐賀
県の間人国宝たちはみな先代からの家業
を引き継いでいる。その契機は宿命的と
も言えるが、与えられた環境で自分にふ
さわしい美の表現を自らの意思で模索
し、独自の作風を確立した結果が人間国
宝として認められたのである。」と述べ
ている。

彼らの作品は、用具としての究極を求め
た結果が工芸として究極の美になったと
いうことではないだろうか。

寒風の中、人影少ない佐賀城社お堀端
をひとり歩きながら、「居合も同じだよ
なあ」、と思った次第である。



2

主な出来事

1月19日

県居合道初稽古会

福岡武道館

一斉稽古の後、無段～八段まで段別に演武

13年11月六段合格者、

13年度錬士、教士称号受賞者に証書授与

六段 松嶋幸一、安部輝幸、藤本旨雄、善明永吉

錬士受賞者 高嶋憲一郎 中島浩 田島誠 中島邦彦

柿坂定美

教士受賞者 堤正紀

各受賞者の皆様のますますのご活躍を期待しています。

理事会

同会議室

役員、理事改選について

3月2日 代表者会議において協議や決定をする。

平成27年度全日本居合道大会主管に向けて準備委員会を発足。

新年懇親会

平和楼

会員56名参加。

和やかに楽しく懇親した。





3

2・3月の 予定

3月2日（日） 居合道審査会

団体代表者会議

..... 福岡武道館

3月21日（祝）第40回北九州居合道大会

..... 北九州市立総合体育館

その他

全日本居合道大会の準備委員会では、順次皆様の中から、色々な経験や技術をお持ちの方にご協力をお願いしていく予定です。よろしくお願い致します。

北九州居合道大会は今回から会長が迫野先生から堀江先生にバトンタッチされました。県居合道部としても全面的に協力して大会の成功に向けて頑張っていきたいと思います。